

現代の名工に 溶鉱炉操り40年 JFEスチール東日本製鉄所 製鉄工 大池 博美さん(53M)



「後輩が迫いかけてくれるような背中を見せたい」と語る大池さん。

卓越した技能者を表彰する今年度の「現代の名工」に、県内からは、JFEスチール東日本製鉄所（千葉市中央区）の製鉄工大池博美さん（58）が選ばれた。喜びの声を聞いた。

「良き先輩や仲間の総力が評価された」と笑顔を

見せる。製鉄工として約40年、溶鉱炉で鉄鉱石を溶かし、鋼の材料を作ってきた。

出身は千葉市中央区。高台の母校・県立千葉工業高からは、製鉄所が見渡せた「物づくりがしたい」と、卒業とともに入社。当時の最新の溶鉱炉に配属された。

溶鉱炉本体は高さ60メートル1500度の内部は見ることができない。空気を送り込む穴から光り方を見ながら、空気の量を変え、温度をコントロールする。「24時間365日動かし続けるために、あらゆることに目を配らなければならない」

溶鉱炉の総責任者として作業員約60人を束ねる。一つのミスがけがや機械トラブルにつながる現場。「当たり前のことを、ぼんやりせずにちゃんとやれ。」緊張感を持たせる一方で、『若手の知識の引き出しを増やすのが自分の役目』と後進育成にも意欲を見せる。

（2017.11.06 読売新聞）

若き日のおもいで

宮崎 一雄 (42C)

東京オリンピックを目前に控えていた昭和39年8月、習志野市に発生したコレラ事件を記憶されている方がおるでしょうか？この事件では患者2名のうち1名が亡くなっております。

当時私は高校1年、千工も津田沼に校舎があった頃のことです。防疫活動で交通が遮断され、その影響を受けた仲間もいました。

それから14年後、私が千葉県船橋保健所勤務の昭和53年10月13日夕刻、船橋市八木ヶ谷にコレラ患者の発生が認められ、原因調査のため急遽現地に赴き、暗い中懐中電灯を頼りに採水(井戸水・浄化槽・近隣井戸水・近隣暗渠排水)業務に従事しました。この頃は装備も貧弱でゴム手袋も無く素手で採水しており、コレラ菌に触れていたかもしれません。

近隣住民は習志野市でのコレラ事件を覚えており、地区内の人通りは無く薬局には「コレラ菌の消毒薬有ります」等の張り紙が見受けられ、浄化槽の清掃業者のバキューム車が走り回っていた事が思い出されます。

その後、船橋市宮本、大網白里町、茂原市、八千代市等での発生が見られ、これらは報道によると上野池之端コレラ集団発生事件の一部で幸いにも死亡者はありませんでした。

コレラに限らず感染症が発生すると、健康調査等の為個人住宅・共同住宅を始め、人の動きを把握しなければならぬが、契約者とは別人が入居、2名とのことが数名入居、常時不在等感染症業務の一部に携わってみて難しさを痛感したものです。

当時、素手で採水した我々、手指等はアルコール消毒、長靴はクレゾール液での洗浄を徹底しており、着替えをしても薬品の臭いが染みついていた。今でこそ、電車で薬品臭がする人はいませんが、周りの人はさぞ不快だったと思います。

こんなに消毒した我々・・・最後に検便検査をさせられた。俺たちは研究材料かとの思いが懐かしいとともに今では衛生状態も良くなり、聞かなくなった「コレラ」、このコレラに振り回されたあの頃から約40年の歳月が流れた。

第15代校長 須之内先生 瑞宝小綬章 受章祝賀会

金子 衛 (38M)



第15代校長の須之内義昭先生が、永年の教育行政への貢献が評価され、平成29年度の叙勲で瑞宝小綬章を受章された。これをお祝いし、7月2日(日)11:30よりホテル「ポートプラザちば」にて盛大に祝賀パーティーが開催された。

当日は須之内先生ご夫妻を囲み、ご友人、千葉工業高校関係者や、東総工業高校、京葉工業高校の関係者多数がお祝いに駆け付けた。我々千葉工業同窓会、(一財)千工会からも12名が参加し、総勢53名でのパーティーとなった。

式典は千葉工業高校の田口、張能両教頭の司会により厳かな雰囲気が進められ、深山同窓会長も登壇

し祝辞を述べられた。昨年受章された永峯第14代校長のウィットに富んだ挨拶があった後、今回も南総支部の小林一臣さん(34M)が七言絶句の詩吟「松竹梅」を朗々と披露され、祝宴を盛り上げてくれた。

2時間半の祝宴であったが、美味しい酒肴とお祝いの言葉に包まれた宴はあっという間にお開きとなり、全員の拍手により須之内ご夫妻をお見送りして宴を閉じた。

今回は昨年の永峯第14代校長に続き2年続けての栄誉であり、我々同窓会にとってもこの上ない慶事となった。

●生徒会役員と同窓会役員の座談会を実施



平成29年5月29日に本校第3応接室で田口教頭先生・生徒会顧問藤澤先生が同席し、生徒会からは遠山陽南子会長(C3)を始め全日制・定時制役員7人、同窓会からは深山会長と本部役員3人による恒例の座談会を行った。

●生徒会部活動 助成金

部活動(関東大会・全国大会出場)への助成

- ①工業化学研究部 千葉大主催(他県からも)
第11回理科研究発表会
子ども向け理科実験教材の開発
優秀賞・県高校教育研理科部会長賞
(6位/370チーム)
2年 平沢 智子さん
2年 松本 梓さん

- ②自動車部
本田宗一郎杯エコマイチャレンジ2017
第37回全国大会 891.031km/1リッター
高校生クラス 24位/237チーム
自動車部部长 2年 土井 蓮人さん
- ③体操部
平成29年度関東大会
- ④弓道部
平成29年度第36回関東個人選抜大会

理数工学科の 記事を見つけた

千葉工業高等学校のホームページで「理数工学科」の記事が掲載されていました。生実校舎で生まれた新しい学科です。最近の授業の様子が判ります。

高校生新聞

2017年(平成29年)6月10日 工業高校特集

タブレットで授業が変わる

千葉 千葉工業高校 理数工学科

学科全生徒が学習に活用

千葉・千葉工業高校に2016年度から設置された理数工学科では、全生徒がタブレット端末「iPad」を学習に活用している。

その狙いを清崎起代則先生は「教室で授業をして家で復習する既存の学習法より、(動画などで)先に各自で学んでから、学習で確認する「反転学習」の方が効率が良いのではないか、と先生方で検討した結果です」と話す。端末を利用することで、プログラミングなどの授業も、コンピューター室に行かずに実施でき、生徒が自宅で学習できる利点もある。「授業の資料の配布やアンケートの実施など、すべての科目でさまざまな活用方法があります」という。

小テストも端末に一斉配信

町野清香さん(1年)は「大学の先生や企業の方から専門的な話を聞ける、毎月1回の「産業工学研究」という授業にひかれて同校に入学した」という。クラスでは学習用の小テストが先生から各生徒のタブレットに一斉配信される。「何問正解したかがすぐに分かります。プリントとして配布されるよ



清崎起代則先生もタブレットを駆使し、生徒に情報を発信したり、生徒が入力した情報を集約したりして授業を進める

りも、復習として何回も繰り返し取り組めるので、とてもいいです」と、勉強しやすさを実感している。

取材日に行われた「情報技術基礎」の授業では、2つのサイコロを振ったときの出た目の合計を生徒が予想。各自がタブレットに入力した回答が瞬時に清崎先生の端末に集まり、その結果がプロジェクターを通して電子黒板に映し出された。町野さんが「ほかの人の意見がすぐに反映されるので、参考になるし、授業も理解しやすい」と語るように、受け身ではなく、多くの生徒が関わり合いながら進む授業は、最後まで熱を



プライベートでタブレットを使用する生徒も多く、操作は手慣れたものだ

帯びていた。

清崎先生は「まだ多くの面で試行錯誤中です」と話すが、タブレット利用の可能性は、今後さらに広がりそうだ。

(文・写真 小野)

千葉工業高等学校ホームページ <https://cms1.chiba-c.ed.jp/chiba-th/>

入学式・対面式



4月7日、平成29年度入学式が行われ、今年度は7クラス277名の生徒が入学しました。

また、2・3年生と1年生が顔合わせをする、対面式も同時期に行われました。



東勢工業高級中等学校来校



5月17日、台湾より東勢工業高級中等学校の生徒29名、引率職員3名が来校しました。各学科の実習や柔道の授業などを見学し、歓迎会を行いました。歓迎会では、東勢工業高級中等学校の生徒が合唱のパフォーマンスを、本校生徒は吹奏楽部による演奏をし、互いの仲を深めあいました。また、最後には生徒同士の記念品の交換もあり、互いに有意義な時間を過ごしました。

部活動壮行会



4月20日、5月に向けて多くの部活動が3年生最後の大会が近いということで、部活動壮行会が行われました。各部活動の部長が壇上へと上がり、最後の大会に向けての意気込みを話してくれました。



球技大会



5月30日、球技大会が行われました。クラス対抗で学年関係なく白熱した戦いが、グラウンドや体育館で繰り広げられました。特に3年生は最後の球技大会ということもあり、応援とプレーに力が入っていました。

創立記念講演会



5月11日、本校の工業化学科の卒業生である平山善吉先生が「我が国の南極観測60年」と題して、創立記念講演会を行っていただきました。

実際に南極へ行った体験を交えて話して下さった平山先生のお話は、実際に行った人にしか感じるこのできない体験談でした。その貴重なお話を、生徒は興味深く聞いており、講演後の質問の時間には時間が足りなくなるほどでした。

修学旅行



9月24～27日、2年生が広島・関西方面に修学旅行へと行き、心配されていた天候にも恵まれました。宮島や大阪などの観光を楽しみつつ、原爆ドームなどの歴史にも触れながら、仲間との貴重な時間を過ごしました。